

かなでだより

令和6年
4月1日発行
かなでだより

ご入学、ご進級された皆様、そして保護者様おめでとうございます。春の日差しが温かく感じるようになってきましたね。さて今回も「非認知能力」についてくわしくお伝えいたします。

「非認知能力」は大きく3つの力に分けられます。

3つの力はやみくもに高めようとするのではなく、高めたい力を決めて意識すると、他の力と絡み合いながら伸びていくものなのです。また、非認知能力は高ければ良いというわけではなく、それぞれの場面で適切な非認知能力を活かすことができるということが大切になってきます。

<自分を高める力>

- 意欲・向上力
- 自身・自尊感情
- 楽観性



<自分と向き合う力>

- 自制心
- 忍耐力
- 回復力



<他者とつながる力>

- コミュニケーション力
- 共感性
- 社交性・協調性



この3つの力は、「自分の意識」で伸ばすことができるのです。

そのため、子ども自身が意識して行動することが大切です。周りの大人は子供が意識できるような仕掛けづくり・環境づくりを意識していく必要があります。下記の7つの力を意識していくことで、3つの非認知能力を養うことができるでしょう。

<自分を高める力>

「まずはやってみよう」とすることができたり、苦手なことや困難なことがあっても挑戦しようとする事ができる
「挑む力」

夢や目標をもったり、なりたい自分や理想の姿を描き、行動に移すことができる
「目標・夢を持つ力」

<自分と向き合う力>

思い通りに行かない状況であっても気持ちを切り替えたり、きることに取り組む
「自分を調整する力」

苦手なことがあっても向き合おうとしたり、粘り強く取り組むことができる
「諦めない力」

<他者とつながる力>

自分の考えや気持ちを伝えたり、相手にわかるように伝えることができる
「伝える力」

相手の話を聞く、相手の立場を理解し相手を認める、違いを認めよりよいものを生み出すことができる
「受け入れる力」

目標達成するために仲間と話し合ったり行動したり、目標達成のために工夫改善することができる
「協働する力」

大切なのは、こうなりたい！というイメージを持ち

「やってみよう！」「やってみよう！」ということ（価値）を子どもが意識して行動し続けることなのです。

今回は、意識づけをするための大人のかかわりについて、お伝えしたいと思います。